

花きの県別生産出荷概況(8月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	6月出荷見込み 千本		主産地	8月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
小ぎく	秋田県	34 (115%)	小雨、寿光、精ことひら、 精なぎさ、みのる、玉姫他	4,336	2,168	JA秋田やまもと JA秋田みなみ JA秋田しんせい JA秋田おぼこ JA秋田ふるさと	80	10	10
	茨城県	143 (100%)	はじめ、すばる、サマルルビー、 小紫、紅千代、若菜、金賞、 ともき、静山、新山他	6,000	4,800	茨城町、小美玉市、 銚田市 他	70	20	10
	群馬県	21.8 (102%)	こかげ、小雨、翁丸、 めぐみ、なかよし他	620	570	赤城たちばな 甘楽富岡	60	20	20
トルコぎきょう	北海道	2756 (98%)	ピッコロサスノー ジャスニーホワイト クラリスピンク 海ほのか	5,623 (101%)		由仁町 JAそらち南	30	30	40
	青森県	6.1 (103%)	ポヤージュホワイト ポヤージュピンク ポヤージュブルー ピッコロサスノー	340 (105%)	190 (107%)	つがる市 田舎館村	40	30	30
	秋田県	12 (110%)	ロジーナシリーズ ピッコロサシリーズ セレモニーシリーズ 他	471	280	かつの、あきた北、 秋田しんせい、 秋田おぼこ、秋田ふるさと、 こまち、うご	60	20	20
	山形県	28 (90%)	ポヤージュシリーズ ピッコロサシリーズ ロジーナシリーズ 他白八重、ピンク八重、黄八重	1,377 (90%)	826 (90%)	JA新庄市、 JA新庄もがみ、 JA山形もがみ、JA鶴 岡、 JA庄内たがわ、 JA庄内みどり、 JA山形市 ほか	40	30	30
	茨城県	10 (100%)	パレオピンク パレオグリーン おり姫 クラリスピンク 他	580	470	水戸市、銚田市、 つくばみらい市 他	45	35	20
	群馬県	7.1 (90%)	ロジーナシリーズ ポヤージュシリーズ バルカンシリーズ ボレロシリーズ 他多数品種	230 (90%)	220 (90%)	利根沼田	40	35	25
	千葉県	5 (100%)	海ほのか ロジーナシリーズ ボレロシリーズなど	40 (100%)	30 (100%)	館山市、鴨川市、 南房総市(丸山、千倉)	60	30	10
		0.6 (100%)	サカタ、ミヨシ品種が中心	90 (100%)	90 (100%)	旭市	30	40	30
長野県		レイナホワイト パレオピンク パステル紫 パステルピンク	2,300 (100%)	800 (100%)	信州諏訪 上伊那 中野市 信州うえだ	45	25	30	

バラ	茨城県	11 (98%)	アマダ、レッドスター、アヴァランチェ、 サムライ、アイリーン、アマダ 他	480	400	茨城町 水戸市 つくば市 結城市 他	40	30	30
	群馬県	15.2 (97%)	アヴァランチェ サムライ 他多数品種	850 (98%)	720 (95%)	前橋市 利根沼田 甘楽富岡	40	30	30
	山梨県	3.8 (100%)	ローテローゼ サムライ 等	320 (100%)	300 (103%)	笛吹市(御坂町)	35	35	30
	静岡県	43 (97%)	サムライ アヴァランチェ シンディ	580 (95%)	400 (98%)	JA掛川市 JA大井川 JAしみず JA遠州夢咲	30	30	40
	愛知県		サムライ08 レッドスター アヴァランチェ シンディ フレアー 他	2,500 (99%)	1,400 (99%)	愛知みなみ ひまわり 豊橋 西三河	35	30	35
	大分県	8 (100%)	Mシリーズ Jシリーズ 他	500 (90%)	160 (88%)	九重飯田 玖珠九重	30	40	40

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
小ぎく	<ul style="list-style-type: none"> ・しんせい:6月の高温少雨により、品種間差はあるが、3日程度の前進傾向。7月の豪雨により一部ほ場が冠水したため、この後の天候次第では、病気が懸念される。 ・ふるさと:当初見込んでいたよりは前進していない。生育は品種によってバラツキがある。 	<p>現状 上旬から中旬にかけては7月盆需要に向けた取引中心となった。入荷に関しても例年と比べやや少なめで高値で推移。中下旬に関しては需要も落ち着き、通常の取引中心の展開。上中旬に関しては新盆需要中心に引き合い強まるも、下旬に関しては落ち着いたものとなった。</p> <p>見通し 上旬から中旬にかけては8月盆需要に向けた取引中心となる。下旬に関しては需要も落ち着き、通常取引中心の展開となる。上中旬に関しては旧盆需要中心に引き合いが強く安定した価格帯で推移するも、下旬に関しては引き合いも落ち着くため、需要に応じた価格帯となる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の品種でさび病あり。 ・例年よりもアザミウマの発生が多い。 ・若干丈の伸びが悪いが、問題はなし。 	<p>大田花き</p> <p>FAJ 岩手・秋田など東北産地出荷本格化。少雨の影響で丈、ボリューム不足の心配も。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・7月咲き品種の開花はやや前進傾向で、丈は短めの傾向が見られる。 ・8月咲きの品種も現時点では若干前進化傾向となっており、多くは8月上～中旬に出荷される見込み。 	<p>東日本板橋花き 8月で需要あり。いものところ目立った障害をきかないため、ある程度の潤沢感があるのでは。台風だけが心配である。</p> <p>世田谷花き 山形など産地が増え、苦戦か。</p> <p>第一花き お盆中心の流れ、後半入荷状況にもよる。 @40</p>
トルコぎきょう	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5月の低温によりお盆向けは遅れている。 ・6月定植で9月出荷のものは生育が早く、8月下旬に出荷量が増加する可能性がある。 	<p>現状 天候や早晚性の入れ替えの影響もあり、長野、山形の出荷が少なめでの7月スタートとなったが、中旬以降徐々に例年並みの出荷となった。販売面では上旬、お盆需要もあり品薄単価高となり、入荷増加とともに例年並みの取り引きとなる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・越冬の作型については、冬の豪雪及び春先の低温の影響により、1週間～10日程の生育遅れとなっており、切り上がりは旧盆前と思われる。 ・春定植の収穫始めは8／上頃と思われる。越冬の後半と春定植の前半の部分で一時的に出荷が重なるものと予想される。なお、現段階では病害虫の発生は確認されていない。 	<p>見通し</p> <p>大田花き 現状では例年並みの出荷見込み。主力は長野、山形、福島、岩手、北海道。上位から下位等級まで安定した出荷となる見込み。</p> <p>FAJ 東北と北海道など高冷地主体の入荷販売。保合い相場で推移する見込み。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の低温により3～4月定植(8月採花)は生育のバラツキが目立つ。病害虫等の発生は少なく、株落ちは少ないが3～4月の生育は7日遅れ。気温の上昇とともに生育が回復傾向。 	<p>東日本板橋花き 高冷地本格出荷。各色入荷潤沢。</p> <p>世田谷花き 暑さの影響で一斉に開花し、潤沢になりそう。</p> <p>第一花き 業務、お盆中心の販売、入荷状況にもよるが概ね例年並み。 @100</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・8月出し作型の生育は、前年並みからやや早く、出荷は極端なピークがなく推移する見込みである。出荷量は、作付面積がやや少なくなっていることから、前年の90%程度と見込まれる。草姿バランスは良好であり、病害虫の発生はほとんどなく経過している。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に生育は良好である。 ・品質は概ね良好である。 ・一部の産地でスリップスが発生。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷は例年並みに進んでおり、現状では8月の出荷量も例年並みの見込み。なお、片品においてはスターチスへの作物変換が進んでいる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は順調で品質も良好。今後徐々に出荷量が減少し、8月中～下旬で出荷終了予定。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は順調。 ・8月盆の時期に信州諏訪、上伊那で出荷ピークを迎える。 ・東北信地区ではピークを過ぎたが、8月盆向けの出荷が始まる。現状では生育は順調。 	

バラ	<ul style="list-style-type: none"> 一部の産地で病害の発生あるものの、全体的に生育は良好。 スリップスはやや発生。 7月の高温の影響により、花茎短い。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現 状</div> <p>高冷地、西南暖地と入り乱れる入荷状況。天候不順のため、生育に難あり。下位等級の入荷多めで、上位等級の発生率が低い。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 一部ではハダニが散見されるが、生育は概ね順調であり、出荷量は平年並を見込む。ただし高温が続くと若干の出荷量減少も懸念される。 一部農家では品質や収量低下を抑えるための夜間冷房に取り組んでいる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見 通 し</div> <p>各商社による輸入ものの入荷が始まるが、為替の影響で昨年より少ない見込み。需要も低く、販売に苦戦すると思われる。西南暖地も下位等級の出荷を見直し、折り曲げ作業など秋のプライダルに備える。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> うどんこ病の発生が散見される。 生育は概ね順調 	<p>大田花き</p> <p>FAJ</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 剪定が遅れており出荷量は昨日よりも多い状況。今後、例年通り剪定に入り出荷量は減少してくる見込み。面積減となっており、出荷量は例年を下回る見込み。 	<p>第一花き</p> <p>需要が多くない時期で、全体的に厳しい販売。 @55</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 7月下旬から8月上旬あたりに出荷量がまとまる見込み。盆前後に出荷を休む産地・生産者もあり、中旬は出荷量が少なくなる。 産地によってボトなどの病気の発生も見られ、8月全体の出荷量は昨年並み～やや下回る予想。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 定植数は平年並みだが、病害対策により出荷品種制限等をおこなうため上旬は出荷量は減少する。 	